



総会会場風景

明治高校同窓会昭和53年度予算
(自)昭和53年4月1日(至)昭和54年3月31日

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	954,050	総会経費	1,000,000
新規入会金	500,000	会報製作費	300,000
年度会費	575,000	通信費	800,000
総会会費	600,000	事務費	100,000
会報広告代	500,000	会議費	250,000
		公用費	100,000
		予備費	79,050
		基金積立	500,000
合計	3,129,050	合計	3,129,050

第十三回総会が、六月十一日に明治高校講堂において行なわれ、会則の改正を中心に進められた。懇親会もなかなか雰囲気の中で行なわれた。

第十三回総会は、昨年同様、の来賓をお迎えし、同窓会員多数の母校講堂において六月十一日午後三時より、恩師、学校関係者多数が出席され、盛況に開催された。

総会では、大竹宏氏(音優)の司会を進められ、会則の改正、事業及び決算の報告を行い、これを可決後、懇親会に入りました。その後の改正は、同窓会の目的とその達成のための事業内容とを、より明確にし、その推進のための組織母

第十三回総会開かる
会則の改正を中心に

体の位置づけと運営の機能化を図ることになりました。懇親会は、なごやかな雰囲気の中で進められ、各テーブルには恩師の位牌づけをし、あわせて基金運用を助成するなどの記念写真や談笑の姿がみられました。

明治会にて



明治高校同窓会昭和52年度会計報告

昭和53年3月31日現在

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	296,847	第13回総会経費	798,880
第13回総会会費	432,100	通信費	29,830
第13回広告代	440,000	印刷費	16,545
51年度分会費	40,000	会議費	36,293
52年度分会費	190,000	公用費	24,300
新規入会金	494,000	慶弔費	31,100
雑収	8,541	雑費	10,490
		次年度繰越金	954,050
合計	1,901,488	合計	1,901,488

左記の通り会計報告いたします
昭和五十三年三月三十一日

会長 片岡 龍夫
会計 小林 昭雄
同 大場 隆之
監査 大西 新二

監査の結果相違ありません

同窓生への手紙

明治会

前略、お元気ですか。卒業して、二十二年、早いものです。僕たちが明中へ入ったのは昭和二十六年、ちょうどサンフランシスコ講和条約が結ばれた年でした。戦争からようやく立ち直って、新しい日本の建設がこれから始まる、まさにそんな年だったわけです。しかし僕たちはのんびりしたもので、受験競争も二、三倍程度、五日制の土・日連休で、みんな思いついて羽根をのほすことのできた頃でした。学業に精を出す者、悪行に励む者、じつに個性がおおらかに開花して、活気ある学生時代でした。校門で下級生から補助金を調達したのは君じゃなかったかな。東商や近隣のワル高から一目おかれていたため、陰ながら君たちの腕力と硬派ぶりが母校一般生徒を守るという思わぬ功徳も生れたたずらです。

明中、明高の六年間、マンボスポン、リーゼントの流行った僕たちの情の深さと友情の強さを証したものでした。特にお世話になった先生がたをお招きしましたが、福馬、保坂、松枝、雨宮、山口諸先生をかこんで、こもこも思ひ出話に花が咲き、あちこちで笑い声があがった。当日、この昭和三十三年組の集いを「明治会」と名付けて、機会あるごとにこうして集まろうじゃないかということになったのだ。四十歳に手の届くかという僕たちの人生、またひとつゆしみがあふるわけだ。働き、子供を育て、彼らを飛び立たせてやる。苦労はつきないかもしれない。しかし、これがおれたちのよきこひでもある。そして、年に一度、明治会」で少年の自分の姿に對面する。人生捨てたもんじゃなげな。お互いに頑張ろう。次の「明治会」がたのしみだ。(昭和32年卒山崎敬生)

技術の日立

これからは
住まいにお掃除システムを
組み込む時代です。

一台で、家中のゴミを集中集塵するくさやかクリーナー

日立セントラルクリーナー



日立住宅設備株式会社

〒160 東京都新宿区信濃町34(信濃町駅前ビル) ☎(03)357-2311(代)

これからの住まいに365日のセントラル。重いクリーナーの本体を部屋から部屋へ。そんな力仕事を365日続けている主婦が大変です。住まいにつきもののお掃除を、もっと合理的にできないか。そこで生まれたのが、お掃除のセントラルシステムです。セントラルクリーナーは、掃除機本体を室外に設置し、要所要所に取りつけられたインレット(ホース差込み口)を配管で結んだ集中集塵システムです。これからの住まいを考えた便利な設備、ぜひご検討ください。



日立製作所



編集者でお宅に伺つてから三十年、母校の先輩、小説の師、人生の父として、接してきた私は、もう先生はいないのだという心の整理がつかず、空洞感のなかで毎日を通して、如何に先生の存在が私の生きる支えであつたかを痛いほど噛みしめ、「君は仕事をするんだよ」と、泉下から叱られて、机にかじりついてゐるのみのありさまでした。

五月三日の午後、世田谷区北烏山の宝福寺に於て、秀興さまをはじめ近親の方々、小説勉強会の新しい仲間の方々に、うかがった話がある。孝也先生に、

「遵良のあとでつづり方を書かせますと、風景描写がたいへんによろしく、井口は紀行文の上手な生徒だという印象が残ってまいりますね」

少年にして、文才の素養があつた証拠、平凡そうにみえて、さながら、土端の家から駿河台の学校へゲートル巻いて、通学する往復三時間、少年の胸にはその道への志向がふくらんでいたのにちがひなく、今日の山手文学の出発は

藤茂雄

田区神田	淡路町一	九
(二五五)	一六	三
一	三	一

島	寛	二
二	七	五
三	九	四
一	三	一

社虎ノ門支店	具	鉄	夫
二	一	二	一
一	二	二	一
二	一	二	一

(交洋ビル)

昭和十七年卒
佐藤三郎

第二部 祝宴

からお祝いするとともに

は万腔の謝意を述べられた後、一

間。ホツとした処で高原君の指

シャルそのもの。孫の話までして

き込まれた言葉を真に受けてか、

による謝辞。心こめての謝意を込

みとします。ご冥福を祈るや切

電千
三 位

電話 田園老本 四二一三
(八六六) 六〇九七七八

昭和五十二年決算報告及び
昭和五十三年予算(案)

会計より

従来、会計年度は毎年六月の
 かし、なお五十二年度は過渡期
 会活動の大切な基金として慎重
 に運用しております。

変則的な形をとっていましたが、月十一日より、五十三年三月三
 日会則の改正にともない、今回より十一月までとなっております
 り新しい会計年度（毎年四月一御了承ください）
 日より翌年三月三十一日まで）
 会計では、会員各位からの入
 りの翌年三月三十一日まで）
 会計、年会費、寄付等は、同窓
 会、五十一年度決算及び五
 十三年度予算は、別表の通りで
 すので、御承認くださるようお願いいたします。（表は二面）

[illegible]

株式会社町田商会
代表取締役 町田清太郎
江東区亀戸一―三十一八
電話(六八二)〇六二八・九三六四

二二会の集い

二十二回卒 増田正一郎

昨年は個々の交わりがあつたが間（旧姓中村）、高坂、鈴木、染井の旅行、集まりがなかつたので、一昨年の三套の集まりについて、日記から拾つてみる。

六月十一日（土）午後六時半、中洲の谷川に、本城、岸本、佐久野、増田、以上十二名。御存じのように、私たちの世代は戦争で多くの友を失つており、人数は少いが、会えば、中学生時過ごした。

鈴木君が即興に書いたもので、旧仮名づかいであるところ、いかに明時代代の教育が肌を沁みこんでいるかと、懐かしさを覚へ、十一時近くまでたのし

昭和三十一年卒
田 じ ま
代表取締役
田 島 寛 二
中央区八重洲二十一丁三
電話(二七五)三一九四一

代の顔に戻り、飲み、吸い、酔つて、日ごろ実社会での苦勞を忘れて、歓洗、五十半ばを過ぎてゐるから、わが子が孫の話も出る。館野君の代弁者として、簡単に少年の頃を想ふ、年を忘れて、喜の日のことをつづつた。

びを共に、来る年、又、逢んと手をとりあふ

(五月十六日記)

昭和三十一年卒
小柳証券株式会社虎ノ門支店
支店長
高具鉄夫
港区虎ノ門一―二―
電話(五〇一)五二―三―
(交洋ビル)

より
 活動の大切な基金として慎重に運用しております。
 なほ、五十二年決算及び五十三年度予算は、別表の通りであります。御覧のとおり
 時の不良か、あの人が主人をいじめた人なのかと勇達を観察する可憐な夫人？。自分の亭主が一番素敵と亭主の側を離れる夫人もいれば、亦……。知らぬは亭主ばかり妻の在り方を実感をもつて語れた夫婦もかくありたしと拍手しはくやまず今日の会を価値づけたのだいたいのと思つた。時間延ばしを重ねた会場だが、幕が閉じねば、

昭和三十一年卒
株式會社町田商會
代表取締役
町田清太郎
江東區龜戸一―三十一八
電話(六八二)〇六二八・九三六四

卒業以來久々の小倉君、白髪を交へ、昔よりも引き締つたものゝ交へ、昔よりも、健康一。故に

のて、御座る。さうなす。我

缺いてします。(表は面)

なり、愉快々々。和氣あいあいのならない。校歌都部の真中を福裡に余興の始まり。口火をきって君の指揮で三番まで合唱、小島口罷はやした松本君が可愛いので音頭三七拍子で手締めと。

口して女己を歌へば、三上君寮歌た。

最後に、佐藤(三)が両師に小島君歌曲、辻本君神田小唄の替え歌、佐藤(守)君、高原君、大摩ひとお礼を述べ、次回もまたた

昭和三十一年卒
目良昇鉄工株式会社
代表取締役
日良昇
川口市本町三十一番十五
電話〇四八二二二三四六六七

はよきものなり。アルコールが入るにつれて貴様、俺の呼び合ひ。談笑と一段とトーンが上がる。はめはやと緊張気味の夫人達も年の功か霧閣に馴れるにつれて學主族の如く入る花をさる。學主殿に次ぐ。しかし、ここで山田先生夫人の教念にお預えできぬ。エを提議

昭和二十三年卒業
大西靜商店
大西新三

あの人が噂の秀才か、あの人が当
き込まれた言葉を真に受けてか、
による謝辞。心こめての謝意を述
べられた後、夫を成功させる方法
みとします。ご冥福を祈るや切

千代田区岩本町二一三
電話(八六六)六〇九七、八

「ことは誠に幸いです。

来ています。これは本校の厳正且つガラス張りの査定と、大学への推薦入学への努力が評価されたものと考えられます。五十三年度の倍率中学九・六倍、高校七・五倍の競争率で、都内の私立校として狭き門の学校の二に数えられています。真に明治を愛する方々の受験をお待ちしています。

さて、最後に最も関心の高い卒業後の進路についてお知らせして終わりたいと思います。

大学への推薦入学がどうなっているかということです。

今年三月卒業生の在籍数は二四七名、うち、本校推薦者七学部合計三三名で、推薦による特別入学を許可された者一三名で一〇

○%の合格案です。他は他大学（主に歯科医科その他）への合格二名、自営業についた者で、本校の卒業生の進路は文学通り一〇〇%の決定であります。

ならないことは、学校が一〇〇%推薦入学会格を目指して努力すればする程、生徒は安易感をもち学習に努力が不足していきるといふ矛盾が生ずることでもあります。

最近に各学音において、年々一般受験の志願者数の増加をみている現状から、本校卒業生の成績追跡調査などにより厳しい申し入れが来るようになりつつあります。本校としても、推薦に値する生徒の

学力向上により一層の努力をしなければならぬ事態に來ていることを痛感します。

因みに昭和五十二年卒業生推薦入学者内訳は次の通りです。

字 部	14
学 部	12
学 部	38
改経 学部	6
計	233

工
農
經 營
二 部 門
合

法 学 部	55
商 学 部	52
政 経 学 部	41
文 学 部	15
工 学 部	14
農 学 部	12
経 営 学 部	38
二部 政経 学部	6
合 計	233

千代田区神田神保町一―七
電話 〇二九一 二一五五 七七

刀根一郎

小林昭雄

糸役表
黒子
昇

佐藤要一

明窓会（昭和二十八年卒）事務局長
（株）振天堂卜ケイ吉

戸田一郎

の井戸吉

縮長役
鈴木利夫

縮長役
小林 明

墨田区両国二一三
電話(六三三)七五〇一(代)

卯木

荒川区西日暮里六―五一―三
電話(八〇〇)六一〇〇

安弘室

守 尺 黑 表

天口刊男

製作所

園材株式会社

稻垣公一

取締役
長
新田満夫

新宿区三栄町二十一
電話(三五七)一四二一

大澤義行

千代田区西神田三―五―二
電話(二六五)一〇六一(代)

代表
柿沼貞雄

米山 耕右

取締役 山 甫 旻 軍

專務 三島 幸子

本製版(株)

社取
長総
宗内
堯